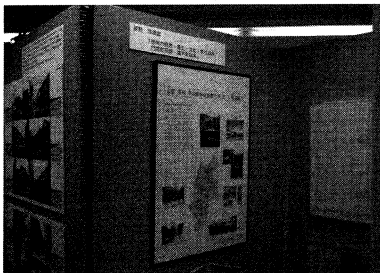


# JIA長野県クラブ 45

社団法人 日本建築家協会

2000.11. 1

▼銀座建築祭アーキテクツガーデン2000  
ふるさとまちなみ展



▼▶飯田まちづくり視察会



▲飯田りんご並木の三連蔵交流施設



## 二十一世紀の建築家像

副会長 依田 政司

私の家は、旧市街地の端で河岸段丘の下にあります。気分転換に時折、この高低差10数メートルの段丘を一気に登り、子供の頃より馴染んだ周辺を散歩します。段丘の上は平坦な台地が東南にひらけ、浅間山から連なる山塊まで延々と続き、信州らしい雄大な風景が（安曇野にはかありませんが）私には少年時代の記憶と重なり、結構気に入っています。

この広大で平坦な台地は、通称上沖台と呼ばれ上田市の代表的な穀倉地帯であり、子供の頃は、この田園風景がどこまでも続き、その果てにあるのが東京だと本気で思っていたものです。

この美しい田園地帯も、バブル経済の頃から少しずつ変容し始め、近くに上田ICが出来てからは、変容の速度が増しています。私の記憶に残る風景が喪失したり、分断されてきているのです。

この現象は中心市街地の空洞化現象と連動しているし、また、全国の地方都市が共有している社会問題でもあります。中心市街地の活性化は都市周縁部の良好な環境に影響を与え、また都市周縁部の良好な環境は中心市街地の活性化に寄与する筈です。

そんな訳で私は今、「中心」と「周縁」の関心に興味を持っています。都市と農村・消費と生産・開発と保存といった二項対立する概念の関係を再構築する事が重要だと思うのです。いうまでもなくこの問題は、政治や経済を中心として、社会全体で解決していく問題なのですが、建築の職能として無関心で済まされることでは有りません。むしろ建築や環境の職能として建築家が「キーマン」になるのではないかとさえ思っているのです。

それは20世紀の巨匠と呼ばれる建築家達が慎重に問題を分析し作品を通して、見事に解決してきた例がいくつかあるからです。最近の例では安藤忠雄が関西空港の土砂採掘跡に設計した「淡路夢舞台」で、開発と環境保全という対立する概念の調和を見事に実現してくれました。20世紀最後の巨匠が、21世紀の建築が歩むべき方向を示してくれた傑作だと思っています。

21世紀も社会は建築家を必要とするでしょう。その為にも今、私達は20世紀を検証し社会の抱える問題に真剣に向き合い、自己を研鑽して21世紀に提案する事を社会から望まれているのです。そのフィールドとしてJIAが最もふさわしいと思うのです。



## あすなろ見学会に参加して

—利休 幻の茶室「大庵」・三五荘「旧古屋家住宅」—

丸山 幸弘

館 設計工房

見学会は7月14日(金)・15日(土)軽井沢、南ヶ丘倶楽部にて開催されました。軽井沢の鬱蒼と茂る樹林の中でこの建築は優美な感じでひっそりと佇み、お客様を優しく出迎えているような建築でした。

茶苑内の建築では茶席をモダンに進化させた形態から茶室の原点とも言える小間の茶室まで見学ができたことに感謝いたします。あいにくの小雨が降る中での見学でしたが、かえってこの天候により風情があり心地良く心にゆとりが生まれ、ゆっくりと見学できたように思います。

「立礼席」では窓上のスライド式の欄間格子に暁色の色ガラスが嵌められ、そこから漏れてくる光は室内を夕景の雰囲気に変え幻想的な茶室にする思考がありました。このモダンさには感心させられました。次に「広間」(広間席)に案内され、お点前を受けました。2畳床の間の18畳間は、お茶を嗜まない私にとって少しだけ高貴な茶会の雰囲気を一時、体験することができました。

少し落ち着いた気持ちで本日のメイン、幻の茶室と言われた大阪屋敷の「深三畳台目」の復元である「大庵」(小間の茶室)を見学しました。茶室内に正座していると天井の高さとか窓の配置、光の差し込み具合、柱梁、床の間などのバランス。素であるが故に豊かな空間。何とも心地良い部屋でした。

随所に見られる匠の技と茶の精神がひしひしと感じられ、作者の客に対する持て成しの心が現れていました。この豊かな空間に、時間を気にせず思う存分居たいと思ったのは私だけではないでしょう。設計者の中村昌生先生のお好み部分がかかなり有るようです。しかし、立礼席、広間、大庵等の建築全体が夕方をイメージさせるように設計されており、雰囲気のある建築構成は大変結構でした。

次に中央工学校研修所にある大広間「千ヶ滝」能舞台を見学させていただき、この能舞台の豪華さはそれはみごとでした。次に山梨県塩山市より移築された建物「三五荘」を見学しました。甲州地方特有の民家で力強くどっしりとした建築です。内部は別荘の利用、または宿泊施設利用などのため改修され建築当時とは違ってしまい保存とは言い難い点は有るものの、いずれにしても奇矯な建築であるし今後も大切に使用していただきたいと想います。

3時間弱の短い時間でしたが建築の原点を見直す良い機会になり大変有意義な時を過ごすことができました。



## jazz と建築

西 沢 利 一

(株)西沢建築研究所

自分が好きということもあるが、jazzを感じる建物をつくりたい、という思いがある。いつも人の作品を見に行った時にも、そんな雰囲気を直感的にさぐっている。

キース・ジャレットのように、静かで奥深いもの、ソニー・ロリンズのように強く太い情念を感じるもの、苦悩を抱えたジョン・コルトレーンのような切実なもの、又パット・メッセニーのように叙情的でスケールを感じるもの、いろいろな資質をもった作品に出会うと、心楽しくなる。マイルスのミュートの音のように繊細で、大きな懐を感じるものは拍手喝采だ。

マイルス・デイビスは、常に前進を続け、時には誤解も受け変化していった。(まるでサーリネンのように)、生み出すものは緊張感に満ち、なお美しかった。今だに古くなく不可解だ。

今の建物はjazzではなくクラシック的だと思うことがある。別に嫌いなわけではないが、建物の多くは差異を無意識に表現しているものが多い。構成あるいは構築という作業は魅力的だが、どこかで亀裂や分断をしてなお全体が生きるという建物に近頃お目にかかったことがない。卑近な言葉でいうと「くそくらえ」をおこなう勇気がないというか、メッセージを伝えるには、表層的なものだけに迫力や美しさを感じない。ハービー・ハンコックはそんな気がするが優等生的だからだろう。迫力というと、丹精とか精魂とか汗っばい言葉はもう死語なのだろうか。(職人的でその上精神的なものを渴望している・・・)

セロニアス・モンクは最初聞いた時は、単音のつながりが妙に新鮮だった。そのうち、ビル・エヴァンスなんかを聞いていると、モンクのテクニクは下手だと思ふようになった。しかし、最近又聞き出して、飽きないことに気がついた。自分の建築もモンクのように単純で、さりげなく、深く、間があるものをつくりたいと思う。

最近、年のせいか体調が思わしくない。でも、キースの「ケルン・コンサート」のように体調が悪くても傑作の生まれることがあるのを思い出した。

ビル・エヴァンスとキースジャレットはよく比較されるが、大きな違いはビルは真似されやすいということだろう。努力をすればビルにはなれるが、キースにはなれないということかもしれない。一方、北欧のケニュー・ドリユーやミケーレボルグのように、スタイルは変わらないが、年々密度を増してゆくジャズメンもいる。社会環境で生まれる資質も違っている。



## 民家再生

中澤 栄二

(株)エービーシー一級建築士事務所

それまで既存の住宅（築95年）の再生という事で既存民家の実測をし、何度か打ち合わせをしていた。3月末施主から新潟の民家を買って移築したいとの話があった。現在住んでいる民家も明治の末で、その地方がかつて絹糸で栄えた時代の建物で、木柄も大きく、味わいもそれなりにあり、楽しい仕事が出来そうな気がしていたが、新潟のケヤキ造りの家が夢らしい。

4月13日施主ご夫婦と新潟のA市へ行き民家の紹介者M氏と地元とのつなぎ役の老婦人（見た目、声は男性、この婦人がいないと地元の人と話しが出来ないらしい）と会う、2人の後について行くと、谷あいの集落へ2t車が入るか心配（運び出しに）になるような所で民家と対面する。

屋根は茅ぶきだが、雪で茅も持っていかれて穴が開き、雪も周りは2m以上あり外周りは見えない、鉄砲梁の民家ではないが、ケヤキ造りの民家らしい、所有者の老夫婦は、息子が公務員で街中に家を建て、一緒に移り住んでいるとの話し、農作業の時にバスで通い休息所として使っているらしい。

軒に手が届くほど雪が有るので、内部のみ見させていただき、8寸角のケヤキの柱に囲まれた3間四方の茶の間があり、奥に杉の造作の8帖2間（この地方では以前山にケヤキは草の様にあり、杉が貴重品だった）台所、土間味噌部屋、うまや等がある一般的な間取りの民家で、丸太梁もケヤキらしい、物は良いが状態は良くない。

5月23日雪がなくなったとの連絡で実測に行く、2mも有った雪も融け、家の前に小さな水田があった。そと周りの土台、柱は使えそうもない、増築も予定しているので替えるつもり。

内部の実測中、茶の間の吊り天井風ブルーシート（16年ほど囲炉裏を使っていなかったため、いたんだ茅、すすが落ちてくるので、受けるため）に5センチぐらい溜まっていた黒いすすを私が隅を切った時ちょうど真下に居た事務所の女性所員が頭からかぶり真っ黒になってしまった、可哀相なことをしてしまった。

8月末解体され上田へ運ばれ、洗いが始まりこれから1年をかけて再生されるが、新潟のケヤキは湿度の高い所で育って成長も草の様に早いのか、粘りが少なさそう。やはり新潟の民家は新潟で、同じ気候のなかで再生された方が良いような感じがする。



## オリンピックの笑顔を建築業界に

傳田 幸治

(株)創和システム

20世紀最後の世界の祭典「オリンピック」が大きな感動を与えてくれた。ヤワラちゃん始まり、競泳、ソフトボール、マラソン、シンクロナイズドスイミング等々、ウーマンパワーの祭典の感が強い。明るく、歯切れがよく、爽やかだった。

女性社会、IT社会に対し、男性、建築業界はインパクトに欠ける。需要と供給のミスマッチから生ずる、生き残りを掛けて、企業の体力勝負の今、リストラに脅え、萎縮している。甘い世の中は終わり今こそ、勇気を持ち時流に合った仕事に夢をたくし移ることも必要だ。

だが、建築業界の中で、創造する喜び、こだわりをもち作品を作り続け施主に喜ばれ、こんな魅力ある職業ないよなど、常々感じている人も少なくない。こんな考えの裾野が広がり、又、仕事への評価、賞賛の場が広がったと思う。大変な時だが、貧しくとも豊かな心、感性、又、技術を磨き、後世に残る本物の仕事（作品）にしたものだ。

オリンピックでの爽やかな笑顔が、建築業界に甦る事を願う。



## 本気で取り組もう環境問題

白澤 靖男

信越アステック(株)長野営業所

「水」は腐ると思いますか？と質問しますと、殆どの人は一瞬ためらいながら「腐る」と応えます。さて、「水」の分子式はH<sub>2</sub>Oで、水素2ケと酸素1ケである。水素と酸素が腐るでしょうか。でも、水道水は腐る。安全と思って毎日飲んでいる水が。私は最近「水」を始め、環境問題について少し勉強するようになりました。

21世紀は地球環境の時代といわれ、私達が想像する以上に環境破壊が加速的に進んでいる様です。地球温暖化の問題の他に、25年後には深刻な水不足（飲料水と農業用水）、40年後にはオゾンホールが60%（予想）になる事や、ダイオキシン問題（特に農業関係）等々、早急に今まで以上に「本気」で取り組まなくては行けない問題が沢山あります。

長野県は、ISO14001認証取得数では上位10都道府県の9位（H11.3）で、環境問題について関心の高い県で、今後益々取得企業が増えると思います。その結果、環境に配慮した設計及び施工の要求が高まり、その要求に応える知識と技術力の勝負の時が到来したと思います。価格が安ければ良いという時代は終わったと思います。

## クラブインサイド

### 第1回情報特別委員会 関 邦 則

7月19日。松本市のルートイン松本ICにて開催。正会員メールアドレスリストの活用及びホームページの作成について意見交換。続いて9月13日に塩尻市のエプソンシステムプラザにて丸山委員を講師にパソコン教室を開催してホームページの作り方について学んだ。

### 第1回交流委員会 高橋重徳

8月22日、メルパルクNAGANOで開催。事業計画の「ねらい」及び実施方法について検討決定。「世代・業種を越えた交流を!!」を基本に事業を進める中で工夫する。特に技術交流会への正会員の積極的参加を促すこと、委員会主催の第1回交流ゴルフコンペの開催を決定した。

### 第1回・第2回事業・会員委員会合同打合せ会

片倉隆幸

8月22日(メルパルクNAGANO)、9月11日(山王共済会館)で開催。「あすなる建築展」について事業・会員合同で協議。日程は10月31日～11月27日。会場は長野、上田、松本、飯田の4地区。出展作品の応募、会場及びDM作成等の準備、各地区の役割分担、地区打合せ会議を行い地区での準備を進めること、出展作品は各自長野会場へ10月31日に持ち込むことなどを決めた。

### 第4回正副会長・委員長会 松下重雄

8月31日、ルートイン松本インターで開催。第5回幹事会の事前打合せを行う。JIA内子大会への参加要請。支部アーキテクツガーデン対応。支部ホームページ開設に対するアンケート対応。あすなる建築展とアーキテクツガーデンの関連検討とその進捗状況把握。本部からのUIA2008大会の誘致運動と開催地候補について等を協議。

### 第1回県内まちづくり視察会

川上恵一

9月2日、飯田で開催。15名が参加。有名なリング並木の中心部にある、大火で焼け残った三連蔵の再生と周辺の整備したものを見学(当クラブの新井優氏が担当)、また中心市街地活性化のまちづくりを進める女性市職員の苦勞話に感動。今後松本、飯山、小諸で開催予定。

### 第5回幹事会 関 邦 則

9月27日。松本市のグルメドール源池店にて開催。JIA大会2000内子(10月20・21日)への参加者・UIA大会2008のナガノ開催への打診・本部地域事業助成費・あすなる建築展・クラブ会員研修(継続教育)・正会員・及び賛助会員メールアドレスリストの活用・本音で語ろう会と技術交流会等について議論された。また地域会の意義と位置付けに関する本部アンケートについて意見を聞いた。

## クラブアウトサイド

### 第2回本部地域委員会 出澤 潔

7月21日開催。4年間にわたり、地域会の整備に取り組んできた地域組織整備委員会がその役割を終え、地域委員会として新たに組織された。委員会の今後の進め方、地域合同会議のあり方・事業助成費について討議。

### 第5回支部保存問題委員会 依田政司

DOCOMOMO(ドコモモ)直訳すると近代建築運動の記録と保存という事になります。学会やJIAを中心として日本委員会があります。昨年現存する20の作品が選ばれました。それがドコモモ20選です。

### 第5回支部会員委員会 久保田 三代

8月26日、大磯の石原会員のセカンドハウスで開催。会員集会は、継続職能研修(CPD)をテーマに11月に開催することに、また新会員の集いも同日に開催することを確認。CPDの単位についても議論された。

### 第4回支部役員会 出澤 潔

9月6日開催。アーキテクツガーデンの準備状況および参加と地域会の参加について、CPD試行への積極的な参加およびプロバイダー申請の要請(特に地域会の積極的な参加)、内子大会への参加についてなど討議。つづいて、公益法人問題の会の現状について説明があった。

### 第3回支部アーキテクツガーデン2000実行委員会

上村保弘

9月21日開催。ふるさとの街並展(テーマ:残したい建物・大切にしたい風景)について討議。10月3日～10月9日INAXアーキプラザ6Fで展示。各地域会からはパネル2面展示。その他出展案内、活動紹介等の展示について協議。展示後は10地域会による交流会を開催する。

### 第4回支部業務委員会 関 邦 則

10月4日開催。支部の委員会として、本部と地域会のパイプ役になろうということで、地域会へ外向き実情を聞いて歩くということになった。



JIA長野県クラブ

編集人 依田政司  
発行人 松下重雄  
発行所 JIA長野県クラブ  
長野市南長野妻科  
426-1  
長野県建築士会館内  
TEL 026(232)3897  
FAX 026(232)5303  
作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。